三鷹市立高山小学校　令和8年度【　社　会　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	○単元ごとに、必要に応じて活用した動画や写真によって、児童が具体的なイメージをもってめあてに向かうことができた。また、実際に消防署などの施設に見学に行った際の事前学習や事後学習としてもタブレット端末を活用することができた。 ○新聞にまとめる・スライドにまとめるなど、情報をただ集めてまとめるだけでなく目的意識をもたせることで、児童が自ら主体的に活動に取り組むことができた。 ○授業で学習した知識を活かして、その他の学習に反映させられることができる児童が少ない。 ○農家の方の話やスーパーへの見学を通して、社会の学習をより自分事としてとらえることができる児童が増えた。	○「わたしたちの市」の学習では、学校のまわりの様子をベースマップ（白地図）上に書き起こした。地形・土地利用・交通・公共施設などを色分けして書き込ませることで、視覚的に比較できる指導計画を設定している。 ○生活科での体験等から地域への愛着や関心が高く、学校周辺の知っている施設や場所の話題では非常に活発な発言が見られる。一方で、それらを「市全体」という広い空間的広がりのなかで位置付けたり、四方位や八方位を用いて捉えたりする視点が弱く、三鷹市全体のイメージが湧きにくい児童が多い。 ○地図記号の意味や成り立ちを暗記することは得意であるが、白地図や副読本の航空写真・地形図などから「土地の高低差（坂道や川の配置）」や「場所ごとの土地利用（商店街、農家、工場、住宅地など）の違い」といった複数の情報を重ね合わせて読み取る技能には課題が見られる。	○児童が「校区周辺の点としての知識」から「市全体の面としての理解」へ視点を広げられるような、比較対象の提示や段階的な白地図活用の指導が不十分であった。 ○個人の白地図作成や資料閲覧にとどまり、集めた情報をもとに「予想と実際を比較する」「自分の言葉で考えを説明し合う」といった主体的な対話や協働的な整理の場を十分に確保できていなかった。 ○副読本『わたしたちのまち　みたか』の航空写真と白地図を照らし合わせる活動を取り入れ、「身近な学校周辺」から「市全体」へと視点をスムーズに拡大・比較できるようにする。 ○「地図から必要な情報を集められているか」「地形や土地利用の『場所による違いやその理由』を自分の言葉で説明できているか」といった評価基準（ルーブリック）を児童に分かりやすく提示し、自分の学びの到達度を自覚しながら目標達成に向けて取り組めるようにする。 ○２学期には、農家の方々へのインタビューやスーパーマーケットの見学といった体験活動を取り入れる。地域社会の実態に直接触れさせることで、社会科の学びを身近なテーマとして捉え、自らの課題として意識できるようにする。
第4学年	○清掃工場の見学や水道キャラバンでの講話など、体験的な場を設定したことで興味関心を高めることができた。 ○体験的な場を設定できないものは、動画やインターネット、資料などを用いて児童が自ら問いを見付け、予想を立てて、学習問題を解決しようとする意欲を引き出すことができた。 ○資料の読み取り方についての学習をし、その学びを総合、算数などの他教科で活用することができた。 ○自分の考えを自分の言葉で記述し、意見交換を行い交流したりする時間を設け、児童の気付きを広げたり、表現を豊かにすることができた。	○自分の生活に関わりが深い事柄を中心に使ったため、より興味をもって主体的な学習ができた。 ○都道府県についての学習の理解が不十分な児童がいる。都道府県の歌を歌うことができる児童はたくさんいたが、場所がわからなかったり、漢字で書くことができない児童が多く見られた。 ○自分の意見を書くことができない児童が見られた。それによって交流の時間でも学習が深まらない様子が見られた。 ○基礎学習、まとめ学習においての個人差が大きい。知識の理解に加えて、普段の授業の取り組みや資料の読み取り、工夫の仕方や学習感想等、日々の取り組みや積み重ねによって大きな差が見られる。 ○社会科見学の時期の兼ね合いによって、今やっている単元と別の内容の単元を急に行うことがあり、学習の見通しがもてない児童が一定数見られた。	○自分の生活に関わりが深い事柄を扱うことは続けていく。体験的な学習を増やし、見学できる場所がない単元においては、動画やインターネット、資料などを用いて、児童が興味をもち、自ら学習問題を解決しようとする意欲、態度を育む。 ○都道府県の歌を使った学習は継続していく。それに加えて、都道府県の形だけを見て何県か答えられるようにするプリントや、漢字で書かせるミニテストを授業の中で行うことによって、３学期末までには学年全員が４７都道府県を全て漢字で書くことができるようになることを目指す。 ○自分の意見を書くことができない児童に関しては、教師が個別でヒントを出すなどして対応する。また、交流の時間中は班の他の意見をノートに書かせるようにし、様々な意見に触れさせ、意見の書き方を学習させていく。 ○単元の入れ替わりがないように、年度初めに見通しをもった状態で社会科見学の日程を調整する。学習が予定より遅れてしまった場合には、学習する単元の順番を入れ替えるなどして柔軟に対応し、児童に見通しをもたせられるよう指導する。
第5学年	○問題を解決する前に予想を立てさせる活動は、課題をつかみ、解決までの道筋をイメージさせる上で有効だった。 ○分布図、地図、統計資料の読み取りの視点を指導することで、児童が数字と事象を関連付けて考えることが習慣付いてきているものの、引き続き課題である。 ○単元の終末のまとめ学習の時間を余裕をもって確保することが難しい。短い時間でもまとめができるよう、日頃から他教科でもまとめる活動の充実を図り、慣れていくことが必要である。 ○ペアでの対話やグループ活動を多く取り入れたことで、友達と協力してできる安心感のなかで、自分の考えを表現する機会が多くなり表現力の向上を図ることができた。	○デジタル教科書を活用し、映像や資料を多く使用した授業を行った。資料を読み取る視点を指導することで、それぞれの資料がもつ意味を理解することができ、知識・理解を深めることができた。 ○日頃から他教科でもまとめる活動を取り入れたことで、短い時間でも単元のまとめをすることができた。 ○学習問題を、児童の話し合いを基にじっくりとつくることができなかった。その結果、与えられた学習課題となってしまい、児童の学習意欲を十分に引き出すことができなかった。 ○統計資料の読み方や、地図の活用など、読み取りの視点をあたえる時間が十分に確保できなかった。その結果、資料を読み取り、活用する力を身に付けさせることが不十分であった。 ○学習したことをまとめる技能について個人差が大きい。	○児童が学習問題を立てる際に、児童の疑問や興味を最大限生かすようにすることで、学習への意欲を引き出す。また、学習問題に対しては必ず予想を立てさせ、その根拠（生活体験、教科書、資料集、地図帳など）も示させることで、思考力の向上を図る。時間が足りないという課題に対しては１年間を通した指導計画を綿密に立てるようにする。 ○資料を読み取る力を育成するために、分布図、地図、統計資料などの読み取りの視点を丁寧に指導する。使用する資料を精査することで、児童が数字と事象を関連して考えることができるよう指導計画を立てる。 ○ペアでの対話やグループ活動を多く取り入れ、友達と協力してできる安心感のなかで、自分の考えを表現する機会を多く確保し、表現力の向上を図る。
第6学年	○児童に疑問をもたせるような導入を行うことで、より主体的に学習問題をつくることにつながった。 ○学習問題に対する予想を立てることで、課題意識をもって取り組めた。 ○デジタル教科書を活用し、写真や映像、図などの可視化をすることにより、他の機関や政策、時代などのつながりに対する理解を深めることができた。 ○事実を覚えることよりも、その時の人々の思いや因果関係を考えさせる学習活動を意識することで、考察しようとする態度や力が育まれた。 ○単元によってまとめの時間の確保に差があった。まとめ方も画一的なものにならないように、いくつかの例示をする必要があった。 ○自主学習等を用いて調べたことを発表する機会を作り、社会事象の関心につながった。	○自己調整力を高めるために、毎時間児童に、誰と・どのように学ぶかという自己選択と、自分の調べ方や学び方がどうだったかの振り返りを行った。 ○学習問題を児童と一緒に作り、学習のゴール（何を理解しているか・どのようにまとめるか）を共通理解することで、見通しをもって学習ができている。 ○教科担任の授業となるため、より授業準備（単元計画やワークシート、資料の作成）に時間をかけ、授業の質を高めることができた。その一方で、児童理解に時間がかかり、個別最適な学びを支えるための支援に遅れが生じた。 ○教科担任の授業で実施しているが、ペア学級の時間割との関係で安定した授業の実施に課題が生じ、各学級での進度をそろえることも難しかった。 ○学習用タブレット端末を活用した調べ学習は充実しているが、情報を選別したり、得た情報から必要事項を上手にまとめることが苦手な児童もいる。 ○歴史は出来事を覚えるだけでなく、その当時の人々が、行ったことの背景について、なぜ行ったのか・どのような思いだったのか、について考えることができている。 ○社会事象に関心をもっている児童ともっていない児童の知識の差が大きい。	○毎時間授業の始めに、児童に対して何を・誰と・どのように学ぶかという自己選択をさせる。また、授業の最後には自分の学び方がどうだったかの振り返りを行い、それを生かして次の授業ではどのように学ぶのか計画を立てさせる。こうしたサイクルを継続して回すことで、学習を自己調整する力の育成を目指す。 ○単元の学習問題を児童の疑問から立てることや、学習問題への予想を立てさせることだけでなく、学習のゴール（何を理解しているか・どのようにまとめるか）を共通理解することで、見通しをもって主体的に学習ができるように引き続き意識していく。 ○評価の基準をルーブリックで示し、より自分の学びを振り返り、単元の目標を達成しやすくする。 ○歴史も公民も、人々の願いや思いについて考えることは共通であることを一貫して意識させ続け、学習したことを、これからの自分たちの生活に生かしていくことの大切さを意識した単元計画の作成を行う。 ○考えたり、調べたりしたことをノートにまとめる活動に力を入れる。歴史の人物・出来事、資料から読み取れたことなどを事実と考察を区別してまとめることができるよう指導する。 ○日頃から社会の出来事に目を向けられるよう、朝の会や授業の冒頭を使い、関心をもったことや自分の考えを伝える機会を作る。